

全体総括

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、平成27年3月に基本計画の認定を受け、「川越らしさを活かした交流とにぎわいのあるまち」をコンセプトに「魅力あるまちなみづくり」、「にぎわいの創出」を基本的方針として各種事業を実施してきた。

平成27年度は、川越駅西口地区において文化芸術振興・市民活動拠点施設として新たに整備されたウェスタ川越の運営が始まり、大ホールで行われる演奏会等を鑑賞される方、多目的ホール等で行われる各種催しに参加される方などにより、新たな人の流れができた。加えて、隣接地に整備された商業施設にも多くの買い物客が訪れており、新たな賑わいが創出された。

また同年には、本川越駅の西口開設などの事業が完了し、西武新宿線本川越駅と東武東上線川越市駅間の連絡に係る時間、距離が約半分に短縮され、両駅利用者の利便性や安全性の向上が図られた。

平成29年度には、本市中心市街地の中間に位置し、賑わいに欠ける結節地域を中心にライトアップイベントが実施されるなど、課題である夜の賑わいを創出するためのイベントが開催されている。

そして、最終年度には、中心市街地南部の商業エリアから結節地域に至る通りである中央通りの拡幅整備が完了し、歩行環境が改善されたことで今後のさらなる回遊性の向上が期待される。

このほか、結節地域に位置し、集客力不足などから閉館後、長年未活用であった旧鶴川座は、地元商店街と連携した民間事業者により、飲食・宿泊機能を有した商業施設として整備され、新たな賑わい創出の拠点となることが期待される。

これまでの取組により活性化が図られてきたことで、中心市街地では人口が増加を続けてきた。本市の特色である歴史的な町並みは、観光客を集めるだけでなく、まちの魅力として居住者の増加に寄与しており、基本計画に掲げるコンセプトや基本的方針にあるように、「川越らしさを活かし」、「魅力あるまちなみづくり」に取り組んできた成果であると考え。特に中心市街地の北部では、歴史的、文化的地域と位置付け、伝統的建造物の保存修理に取り組むなど、魅力の向上につながる事業に継続して取り組んできた結果が表れたものと考え。

こうした事業効果により、通行量が増加するなど賑わいの創出が図られたが、この賑わいを中心市街地全域へと波及させることが必要であり、そのためには回遊性のさらなる向上が課題である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)	令和元年度 (最終年度)
人口	28,264人	28,377人	28,406人	28,578人	28,623人	28,697人
人口増減数		113人	29人	172人	45人	74人
自然増減数		-22人	-57人	-9人	-46人	-54人
社会増減数		135人	86人	181人	91人	128人
転入者数		2,290人	2,393人	2,389人	2,466人	2,537人

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した

②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

基本計画で掲げた84事業のうち、80事業が完了および実施中で、4事業が未実施となった。事業進捗率は95.2%で計画した事業は、概ね予定どおり進捗・完了したと考える。

「歩行者・自転車通行量」は、基準値である平成26年の91,882人から令和元年の104,576人へと12,694人増加しているが、これはウエスタ川越や産業観光館といった拠点施設で実施されるイベントなどにより来館者が増え、周辺の通行量が増加したものである。これまでで最も高い数値となったが、「旧鶴川座再生・利活用事業」による施設整備の完了が計画最終年度となり、その効果が数値に反映されなかったことに加え、「旧川越織物市場保存整備事業」の進捗が遅れているため目標値の達成には至らなかった。

「観光客の立ち寄り観光地点数」は、基準値である平成25年の4.27か所から令和元年の4.38か所へと増加する結果となった。観光エリアの中心である伝統的建造物群保存地区では、町並み景観の維持・向上に取り組んできたことで、地区内の蔵造りの町並みや時の鐘、その近くの菓子屋横丁に観光客の90%以上が訪れているが、その他の観光スポットやその周辺エリアへ回遊させることができず、目標値を達成することができなかった。また、同じ伝統的建造物群保存地区内にある川越市蔵造り資料館が、耐震補強工事受注業者の倒産により閉館中であることも影響している。

「空き店舗数」は、基準値である平成24年の74店舗から平成31年の62店舗へと減少しているが、これはチャレンジショップ事業や空き店舗対策事業など、各実施団体のソフト事業が補完し合ったことで目標値が達成できたものとする。この他、賑わいの

創出に寄与する事業の効果により町の魅力が向上したことも要因として上げられる。

総じて、通行量は目標値を達成していないものの、中心市街地で実施されてきた各取組により、居住人口は増加を続けており、併せて、都心から 30 km圏といった好立地からメディアで取り上げられる機会も多く、観光客数も増加を続けている。

こうした状況を勘案し、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

川越市中心市街地活性化協議会では、事務局を担うまちづくり会社を中心に商工会議所、各民間事業者、行政とが継続的に協議の場を持ち、中心市街地の活性化を促進してきたことで、計画に位置付けられた事業等は概ね順調に実施されたものとする。

川越駅西口地区では、ウエスタ川越が拠点施設として整備され、多くのイベントが実施されてきたことで、新たな賑わいが生まれ、歩行者等通行量の増加に寄与してきた。また、結節地域に関しては、たびたび進捗報告を受け、協議を重ねてきた旧鶴川座が完成し、今後、賑わいの創出に寄与するものと期待できる。

観光地点数については、数値が伸びず、観光客は増えるものの一番街周辺での観光に留まってしまい、氷川神社、喜多院、昭和のまちなどの各エリアまで十分に回遊させることができなかった。観光地点間を結び付けるためにイベントなどによる仕掛けづくりを行い、観光エリアを拡大させる必要がある。

空き店舗数については、協議会の分科会として「空き地・空き店舗・空き家活用ワーキンググループ」を立ち上げ、マッチング支援や空き店舗ツアーなどを実施してきた。こうした新たな活動に加え、各事業が順調に進められたことで、空き店舗が減少し、目標値を達成できたことは評価できる。ただし、1つのケースとして、空き店舗が取り壊され、駐車場となるなど賑わいに欠ける状況も見られるため、活用の用途にも関わると活性化につながる対応が取れるものとする。

全体として、目標指標の達成状況や未完了、進捗に遅れが生じている事業などもあることから、若干の活性化が図られたと考える。継続して実施する事業は引き続き取り組み、当該事業効果を中心市街地全域へ波及させることが求められる。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

川越市市民意識調査

調査期間：平成30年10月1日から10月26日

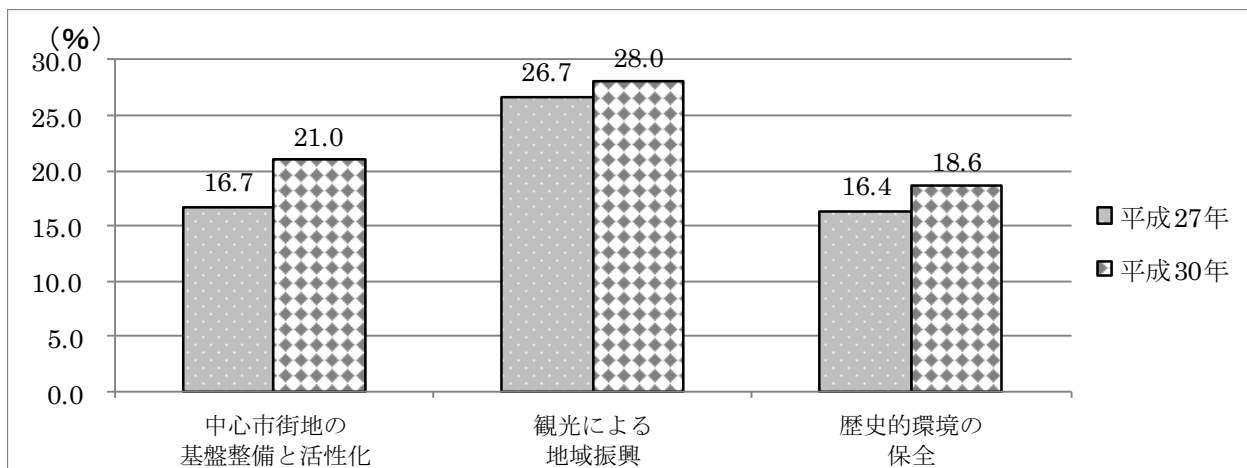
調査方法：郵送配布－郵送回収法

調査対象：川越市在住の満18歳以上の男女（外国籍市民を含む）（無作為抽出）

有効回収数：1,556票（51.9%）／標本数3,000人

<「よくなってきた市の施策」という設問について>

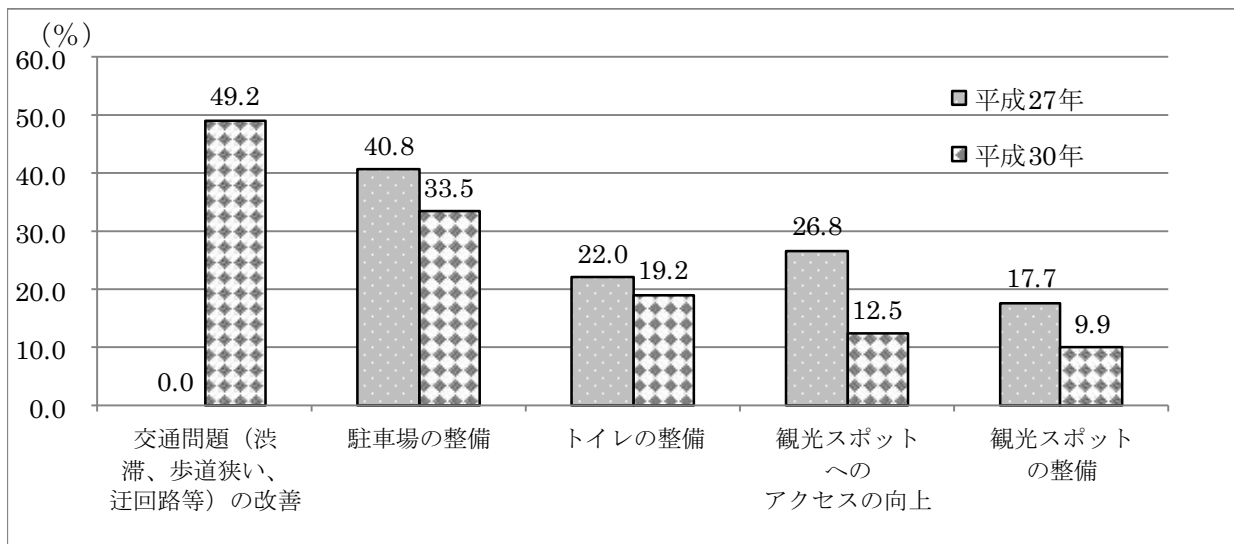
中心市街地の活性化に関連する3項目について、計画策定年の平成27年と直近の平成30年を比較したところ、いずれの項目についても割合は増加しており、活性化に関する取組の効果が表れているものと考えられる。



<「観光振興のために必要な施策」という設問について>

観光客により賑わいを見せる北部中心市街地に関して、「観光振興のために必要な施策」の上位項目について比較すると、「観光スポットへのアクセスの向上」や「観光スポットの整備」などは取組が評価されているものと考えられる。ただし、「交通問題」や「駐車場の整備」といった交通課題については依然として必要性が高く、改善が必要である。

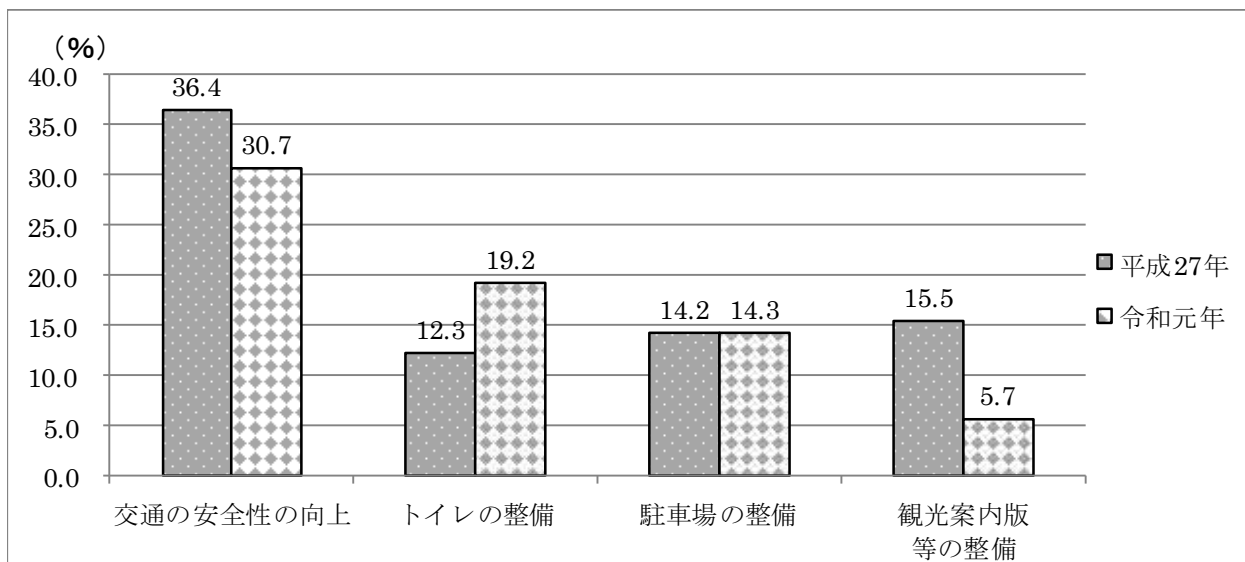
（注：「交通問題の改善」は、H30調査から追加。）



【参考：川越市観光アンケート調査結果】

＜「川越に対しての要望」という設問について＞

本市を訪れる観光客を対象としたアンケート調査において、本市への要望を伺ったところ「交通の安全性の向上」や「駐車場の整備」などの項目が上位となった。観光客の要望も市民意識と同様に交通に関する課題が上位を占めており、計画策定年（平成27年）と比較しても概ね同様の結果となっている。本市の入込観光客数が平成27年から約110万人増加していることもあり、交通課題への要望は依然として高い状況である。



※「トイレの整備」の選択肢は、平成27年調査では「無料休憩所・トイレの整備」であったものを「トイレの整備」として整理。

6. 今後の取組

本計画に基づく各事業の実施により、目標として掲げた回遊性の向上や商業・サービ

ス業の活性化が図られたことで、通行量の増加や空き店舗の減少といった効果が見られ、市民意識調査においても肯定的な評価が得られた。こうした活性化の効果を持続していくことが重要である。

本計画は終了となるが、今後も中心市街地の賑わいを維持していくためには、行政に限らず、市民や民間事業者の力を活かした取組を促進していく必要がある。また、目標値を達成できなかった指標である「観光客の立ち寄り観光地点数」については、1つのエリアに集中している観光客をより広域へと誘導するために、観光エリアの拡大を図る取組が必要である。

具体的には、計画期間中に完了しなかった旧川越織物市場の整備や蔵造り資料館の耐震化といったハード事業の実施に加え、商店街等が実施しているイベント等のソフト事業が継続して実施できるように支援を行っていく。

今後も引き続き実施する事業の効果を検証し、中心市街地全域への波及とさらなる回遊性の向上を図っていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
回遊性の 向上	歩行者・自転車 通行量(平日・休 日の平均)	91,882 人 (H26)	110,000 人 (R1)	106,376 人 (R1)	104,576 人	R1.5	B2
	観光客の立ち寄 り観光地点数	4.27 か所 (H25)	4.50 か所 (R1)	4.45 か所 (R1)	4.38 か所	R1.5	B2
商業・サ ービス業 の活性化	空き店舗数	74 店舗 (H24)	64 店舗 (R1)	66 店舗 (R1)	62 店舗	R1.12	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

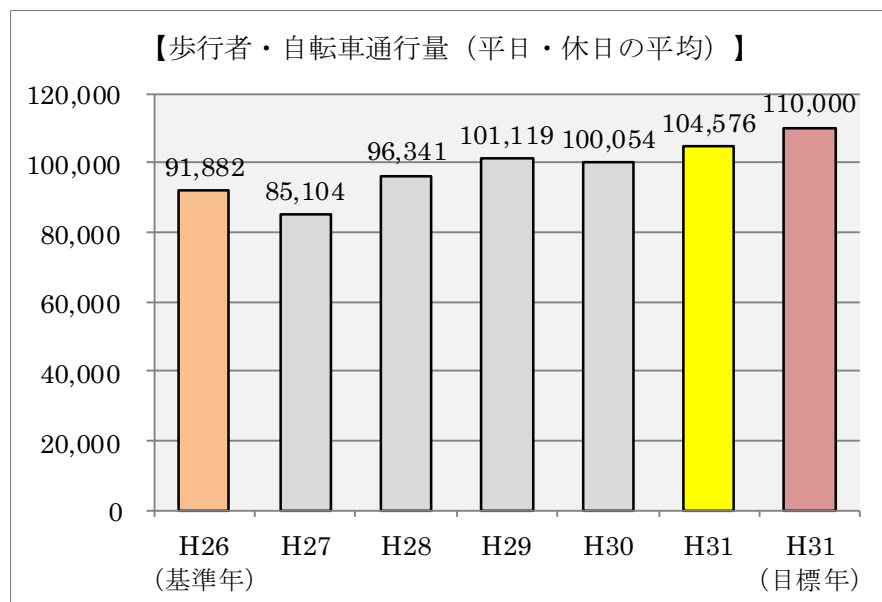
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 56～P. 61

参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H26	91,882 (基準年値)
H27	85,104
H28	96,341
H29	101,119
H30	100,054
H31	104,576
H31	110,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車の通行量について、毎年5月下旬の平日及び休日の8地点において午前10時から午後7時までの毎時00分から15分及び30分から45分の各15分間計測し、その数値を2倍し、1時間当たりの通行量を推計

※調査月：平成31年5月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内8地点の歩行者及び自転車の通行量

2. 目標の達成状況【 B2 】

歩行者・自転車通行量の増加に向けた事業については、概ね予定通りに進捗したものの、一部の事業で遅れが生じた。主要な事業である「川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業」では、さまざまなイベントや催しが行われてきたことで安定的に来館者が訪れ、周辺通行量の増加が図られた。また、川越駅西口歩行者用デッキの延伸に関連する事業の追加が行われ、「川越駅西口市有地利活用」事業とともに、さらなる通行量の増加が期待される。

一方で、「旧鶴川座再生・利活用事業」では、事業の完了が最終年度となったことから、事業効果が数値に反映されなかった。また、「旧川越織物市場保存整備事業」では、整備工事の契約解除があり、遅れが生じたことで計画期間内に工事が完了しなかった。通行量は年々、順調に伸びてきたが、目標値の7割に留まったことから達成状況はB2とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 5-2 川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業（川越市）

事業実施期間	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	ウェスタ川越において、市民や近隣市町住民の芸術文化活動の拠点として、良質な鑑賞機会や発表の場の提供、市民の自主的な学習活動の支援、生涯学習の場と機会の提供、男女共同参画に関する各種講座や相談業務等を実施し、これらにより地域住民の活動・交流を促進して、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 3,762 人増加 最新値 13,340 人増加 目標達成
達成した（出来なかった）理由	川越駅西口地区の新たな拠点として、ウェスタ川越の認知度が高まるにつれ、施設利用者が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	複合施設として多くの方に利用されており、併せて周辺通行量が増加している。
事業の今後について	事業は順調に実施されており、利用者数も増加していることから、継続して賑わいの創出に向けた取組を行う。

②. 7-1 旧鶴川座再生・利活用事業（TKM 株式会社（民間事業者・地元商店会）

事業実施期間	平成 28 年度から【済】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、「まちのにぎわい拠点」としての機能を継承した商業施設を整備し、この界隈に賑わいと活力を創出する象徴として再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（平成 30 年度） 商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁）（平成 31 年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 546 人増加の内数 最新値 715 人減少の内数 目標未達成 本施設前の歩行者等通行量は、基準年の平成 26 年と比較すると 61 人減少した。
達成した（出来なかった）理由	施設整備が完了し、今後の通行量の増加が期待されるが、計画最終年度の完了であったため、目標の達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	これまで周辺エリアにはなかった新たな拠点施設として、多くの来街者を集めるイベント等を企画している。
事業の今後について	地元商店街などと連携し、賑わい拠点として周辺界隈の再生に向けた取組を行う。

③. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業実施期間	平成 24 年度から【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のための

	インキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国土交通省）（平成 27 年度から）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 546 人増加の内数 最新値 715 人減少の内数 目標未達成 本施設前の歩行者等通行量は、基準年の平成 26 年と比較すると 503 人減少した。
達成した（出来なかった）理由	事業には着手したが、整備工事の契約解除があり、計画期間内に完了しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	継続して事業が進められており、当該施設周辺には拠点となる施設が少ないことから、完了後の来街者の増加が期待される。
事業の今後について	周辺拠点施設や商店街等との連携により賑わいの創出を図るため、継続して事業を進める。

④. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（株まちづくり川越）

事業実施期間	平成 22 年度から 31 年度【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 344 人増加 最新値 2,202 人減少 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	産業観光館は毎年 30 万人を超える来館者数を維持し、施設周辺エリアへの回遊性の向上に寄与したが、計測時における通行量の増加は見られなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	市民や観光客に地域の食や物産を提供するとともに、イベントや交流の場として活用されている。
事業の今後について	施設利用者数のさらなる増加を図るため、イベント等のソフト事業を引き続き実施する。

⑤. 4-7 伝統的建造物群保存地区保存整備事業（川越市）

事業実施期間	平成 12 年度から【実施中】
事業概要	伝統的建造物群保存地区の保存整備を図るため、伝統的建造物の保存修理に対して費用の助成を行うとともに、伝統的な建造物の個別調査を実施し、具体的な修理方法の検討を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（重要伝統的建造物群保存地区・保存修理事業）（文部科学省）（平成 12 年度から）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 18,376 人増加の内数 最新値 12,694 人増加の内数 目標未達成 伝統的建造物群保存地区内の歩行者等通行量は、基準年の平成 26 年と比較すると 4,178 人増加した。
達成した（出来なかった）理由	本事業により良好な景観が形成され、事業エリアである北部中心市街地の通行量の増加に寄与したが、全域での目標達成には至らな

	った。
計画終了後の状況（事業効果）	本市の観光の中心である蔵造りの通りにおいて、町並みの景観が向上している。
事業の今後について	地域の関係団体と連携しながら、引き続き良好な景観の形成に取り組む。

⑥. 7-38 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの推進（川越市）

事業実施期間	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	2020 年東京オリンピック競技大会のゴルフ競技が市内で開催されることから、ハード・ソフトの両面の整備により、「まちの顔」である中心市街地の魅力を高め、国内外からの観光客の誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（内閣府）（平成 27 年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 18,376 人増加の内数 最新値 12,694 人増加の内数 目標未達成 事業に関連する施設等の周辺の歩行者等通行量は、基準年の平成 26 年と比較すると 4,099 人増加した。
達成した（出来なかった）理由	バナーフラッグの設置など、機運醸成のための事業を実施し、市民への周知と賑わいの創出が図られたが、中心市街地全域での目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	オリンピックに向けて、中心市街地などでイベント等を実施するなど、さまざまな取組が行われている。
事業の今後について	本市で開催されるゴルフ競技に向けて、引き続き事業を実施していく。

4. 今後の対策

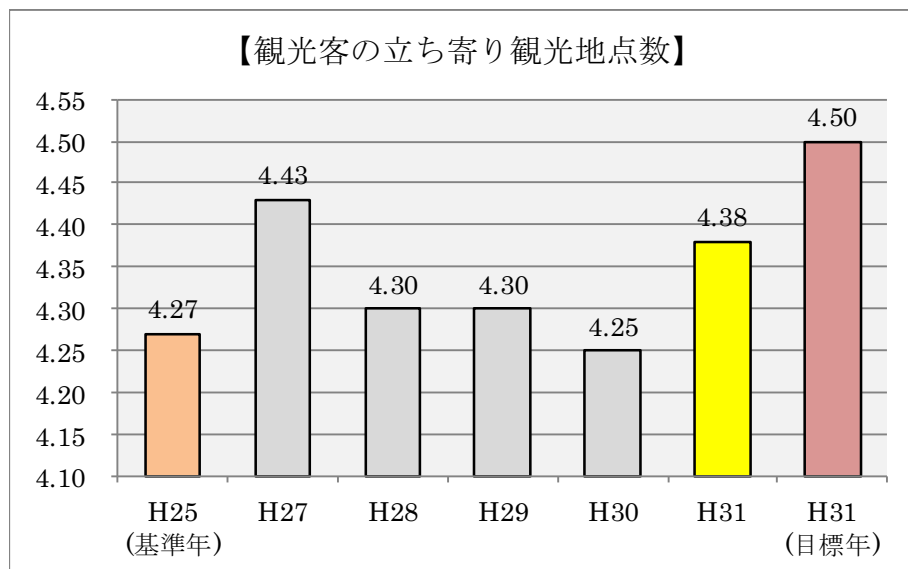
目標達成に向けた主要な事業で、完了に至らなかった「旧川越織物市場保存整備事業」については、中心市街地の中間に位置し、通行量が少なく課題となっている結節地域で実施している事業のため、引き続き取り組み、通行量の増加を図る。また、同じ地域で施設整備が完了した「旧鶴川座再生・利活用事業」は、今後、効果の発現が見込まれることから、当該地域の活性化が図られ、この効果が中心市街地の北部と南部を結び付けることで、全域へと波及できるように、両事業を推進していく。

このほか、令和 2 年度には「川越駅西口市有地利活用」事業が完了し、川越駅西口歩行者用デッキの延伸等の追加事業と併せて、周辺通行量の増加が見込まれる。

通行量は、年々、着実に増加しており、これは施設整備による効果だけでなく、イベントの実施や町並み景観の保全などのソフト事業が継続して行われてきたことも大きな要因である。今後もハード、ソフトの両面から通行量を増加を図るとともに、増加した来街者を広域へと回遊させ、さらなる活性化を図る。

「観光客の立ち寄り観光地点数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 61～P. 64 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：箇所)
H25	4.27 (基準年値)
H27	4.43
H28	4.30
H29	4.30
H30	4.25
H31	4.38
H31	4.50 (目標値)

※調査方法：観光アンケート調査（観光客への聴き取り調査）

H31 は、選択肢が整理されたため、基準年の調査に合わせた推計値

※調査月：毎年1月から12月の各月実施、翌年4月とりまとめ

※調査主体：川越市

※調査対象：観光客

2. 目標の達成状況【 B 2 】

観光客の立ち寄り観光地点数の増加に向けた事業については、概ね予定どおり進捗したものの、一部の事業で遅れが生じるとともに、工事業者の倒産により休業となる施設もあった。主要な事業である「歴史的地区環境整備街路（立門前線）」は、沿道の施設整備事業と連携して実施しており、一部の区間の完了に留まったが、周辺の立ち寄り地点である蓮馨寺ではイベントの実施効果などもあり、多くの来街者を集め、回遊性の向上に寄与した。また、「川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業」は、結節地域の中で多くのイベントを実施し来街者を集めた。

この他、川越駅東西口の整備が追加され、本市の玄関口である川越駅から各観光地点への回遊性が高まり、立ち寄り地点数の増加が期待される。

一方で、継続して整備が進められている「旧川越織物市場保存整備事業」や、計画最終年度に施設整備された「旧鶴川座再生・利活用事業」などは、当初見込んでいた効果が得られなかった。加えて、観光エリアにある蔵造り資料館では工事業者の倒産により工事が中断し、休業となったことは目標指標に大きく影響した。

達成状況については、順調に推移するものの目標値の8割に及ばなかったためB2とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 7-1 旧鶴川座再生・利活用事業（TKM 株式会社（民間事業者・地元商店会）

事業実施期間	平成 28 年度から【済】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、「まちのにぎわい拠点」としての機能を継承した商業施設を整備し、この界隈に賑わいと活力を創出する象徴として再生を図る。
国の支援措置名及び支援期間	特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定（経済産業省）（平成 30 年度） 商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁）（平成 31 年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,537 人増加の内数 最新値 39 人増加の内数 目標未達成 本施設前の歩行者等通行量は、基準年の平成 25 年と比較して 378 人増加した。
達成した（出来なかった）理由	施設整備が完了し、今後の施設利用者の増加が期待されるが、計画最終年度の完了であったため、目標の達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	これまで周辺エリアにはなかった新たな拠点施設として、回遊性の向上に寄与するイベント等を企画している。
事業の今後について	地元商店街などと連携し、賑わい拠点として周辺界隈の再生に向けた取組を行う。

②. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業実施期間	平成 24 年度から【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国土交通省）（平成 27 年度から）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,537 人増加の内数 最新値 39 人増加の内数 目標未達成 本施設前の歩行者等通行量は、基準年の平成 25 年と比較して 339 人減少した。
達成した（出来なかった）理由	事業には着手したが、整備工事の契約解除があり、計画期間内に完了しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	継続して事業が進められており、当該施設周辺には拠点となる施設が少ないことから、完了後の来街者の立ち寄りが期待される。
事業の今後について	周辺拠点施設や商店街等との連携により賑わいの創出を図るため、継続して事業を進める。

③. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（株まちづくり川越）

事業実施期間	平成 22 年度から 31 年度【実施中】
--------	-----------------------

事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 382人増加 最新値 106人増加 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	産業観光館は毎年30万人を超える来館者数を維持し、施設周辺エリアへの回遊性の向上に寄与したが、目標達成にまでは至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市民や観光客に地域の食や物産を提供するとともに、イベントや交流の場として活用されている。
事業の今後について	施設利用者数のさらなる増加を図るため、イベント等のソフト事業を引き続き実施する。

④. 4-8 歴史的地区環境整備街路(立門前線)(川越市)

事業実施期間	平成23年度から令和2年度【実施中】 [認定基本計画：平成23年度から31年度]
事業概要	歴史的な建造物の町並みが続く地区において、町並みと調和がとれ、景観に配慮した道路整備を行うことによって、地域の魅力の向上や居住環境を高めるとともに、観光客の回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)(国土交通省)(平成29年度から31年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 38人増加 最新値 81人増加 目標達成
達成した(出来なかった)理由	当事業は沿道に位置する旧鶴川座や旧川越織物市場といった施設整備事業と連携して実施しており、計画期間中は一部の完了に留まったが、関連事業の効果もあり、指標として設定している蓮馨寺周辺の活性化が図られた。
計画終了後の状況(事業効果)	主要な通りを結び、沿道に拠点施設を有する当該路線は、来街者の回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	沿道の拠点施設である旧川越織物市場の進捗に合わせて、未完了箇所を整備を行う。

4. 今後の対策

目標達成に向け、中心市街地の課題となっている結節地域において、新たな拠点施設として「旧鶴川座再生・利活用事業」や「旧川越織物市場保存整備事業」の整備を進めるとともに、両施設を結ぶ「歴史的地区環境整備街路(立門前線)」に取り組んだ。

「旧鶴川座再生・利活用事業」や立門前線の道路美装化については、事業完了から間がないため今後の効果の発現が期待される。周辺の立ち寄り地点である蓮馨寺では、イベント等の効果により来街者が増えており、今後期待される効果の発現と合わせ、さらなる増加が見込まれる。こうした効果が、他の立ち寄り地点へも波及するように情報発信などに引き続き取り組んでいく。

また、追加事業である川越駅東西口の整備は、多くの来街者を迎える本市の玄関口か

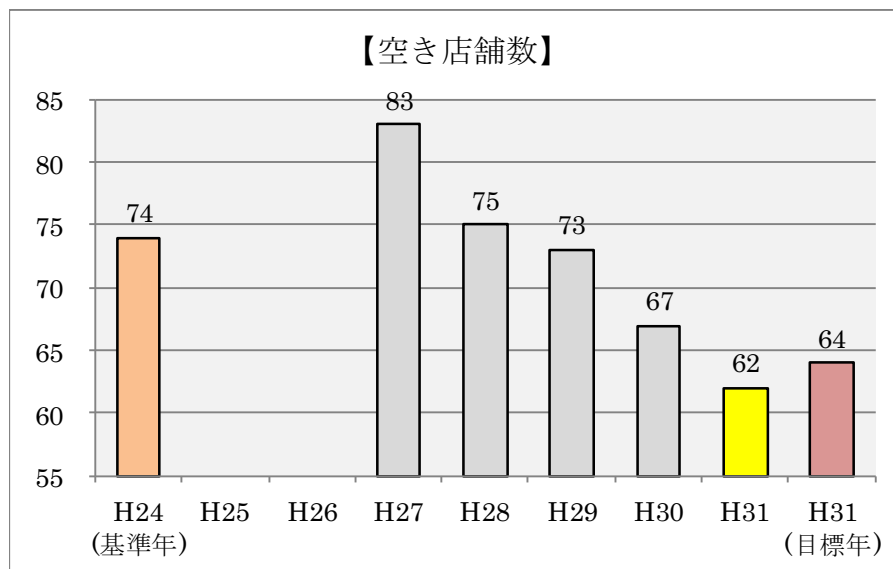
ら、市内に広がる各観光地点への回遊が期待され、立ち寄り地点数の増加に寄与するものと見込まれる。

この他、事業に遅れが生じている「旧川越織物市場保存整備事業」は、結節地域の拠点施設の1つとして集客効果が見込めるため、引き続き事業を進める。蔵造り資料館についても、多くの観光客が集まる観光エリア内の観光スポットのため、工事の再開に向けて取り組んでいく。

今後も継続して関連事業に取り組むとともに、各観光スポット間のつながりを強めることで、回遊性の向上を図る。

「空き店舗数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 64～P. 66 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：店舗)
H24	74 (基準年値)
H25	—
H26	—
H27	83
H28	75
H29	73
H30	67
H31	62
H31	64 (目標値)

※調査方法：現況調査

※調査月：令和元年12月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内商店街

2. 目標の達成状況【 A 】

空き店舗数の減少に向けた事業については、一部の事業で遅れが生じたものの、概ね予定どおり進捗した。主要な事業である「チャレンジショップ事業」や「空き店舗対策事業」などのソフト事業は、開業を目指す多くの方に利用され、空き店舗の減少に寄与した。「旧川越織物市場保存整備事業」は、インキュベーション機能を有する施設として、入居者が開業する際に空き店舗を活用することで空き店舗の減少を見込んだが計画期間内に事業が完了しなかった。

達成状況については、目標値を達成したためAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業実施期間	平成24年度から【実施中】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
国の支援措置名	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）（国土交通省）（平成27年度から）

及び支援期間	
目標値・最新値及び達成状況	目標値 13 店舗 最新値 0 店舗 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	事業には着手したが、整備工事の契約解除があり、計画期間内に完了しなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	継続して事業が進められており、完了後は当該施設入居者の空き店舗への出店が期待される。
事業の今後について	商店街等の関係団体と連携し、空き店舗の解消による地域経済の活性化に向けて、継続して事業を進める。

②. 7-2 チャレンジショップ事業(株まちづくり川越)

事業実施期間	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	中心市街地商店街の空き店舗を借り上げて、チャレンジショップとして出店を希望する新規開業者等に貸し出し、経営指導等を行い、独立開業を支援していく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(平成 27 年度から 31 年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 5 店舗の内数 最新値 11 店舗の内数 目標達成
達成した(出来なかった)理由	チャレンジショップへの出店中の経営指導などの効果のほか、関連事業の実施効果により空き店舗は減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	チャレンジショップ卒業生は、条件の合う店舗を継続して探しており、今後も空き店舗の減少が見込まれる。
事業の今後について	これまでの事業効果などを踏まえて、より効果的な取組を検討する。

③. 7-11 空き店舗情報登録制度(川越市)

④. 7-12 空き店舗対策事業(川越市)

事業実施期間	③平成 24 年度から【実施中】 ④平成 25 年度から【実施中】
事業概要	空き店舗の情報収集・情報提供を行う空き店舗情報登録制度により登録された空き店舗を利用した事業に関して、店舗改修費や賃借料を補助することにより、中心市街地に存在する空き店舗の減少を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 5 店舗の内数 最新値 11 店舗の内数 目標達成
達成した(出来なかった)理由	空き店舗の情報提供や改修費等の補助の効果のほか、関連事業の実施効果により空き店舗は減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	改修費等の補助は、空き店舗活用のハードルを下げることから、広く活用されている。
事業の今後について	空き店舗の解消に直接的に寄与する事業のため、引き続き実施する。

- ⑤. 7-13 空き地・空き店舗活用支援事業（株まちづくり川越）
 ⑥. 7-14 テナントミックス事業（株まちづくり川越）

事業実施期間	平成 21 年度から【実施中】
事業概要	⑤空き地・空き店舗の情報収集・提供を行い、必要に応じて、業種・業態を考慮した店舗誘致に向けた調整も併せて行う。 ⑥商店街内の空き店舗を利用した魅力的な店舗の展開、個店の業種構成の見直し、不足業種や魅力的な店舗の空き店舗への誘致等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 5 店舗の内数 最新値 11 店舗の内数 目標達成
達成した（出来なかった）理由	両事業は、中心市街地活性化協議会の分科会と連携して実施しており、空き店舗ツアーの実施のほか、関連事業の実施効果により空き店舗は減少した。
計画終了後の状況（事業効果）	基本計画期間の満了に伴い、これまでの取組結果等をまとめ、空き店舗対策に活用している。
事業の今後について	空き店舗の活用を行っている団体と連携し、それぞれの強みを生かした取組を行う。

⑦. 7-15 経営力向上・創業等支援（川越商工会議所、パートナー機関）

事業実施期間	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	川越商工会議所のネットワークを活用し、様々な分野のパートナー機関と連携して、中小企業者の経営力向上、新事業展開、事業承継等の課題解決に向けた支援を行う。また、創業希望者を対象とした研修等を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし。
目標値・最新値及び達成状況	目標値 5 店舗の内数 最新値 11 店舗の内数 目標達成
達成した（出来なかった）理由	支援を活用した方による起業のほか、関連事業の実施効果により空き店舗は減少した。
計画終了後の状況（事業効果）	創業スクールの開催などによる支援は、市内で創業を希望する方に広く活用されている。
事業の今後について	中小企業者の実情に沿い、課題解決につながる取組を引き続き実施する。

⑧. 7-16 若手人材育成事業（川越商工会議所、関係研修機関）

事業実施期間	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	若手経営者・商業主等を対象に、時代の変化や消費者等のニーズにあった商業経営のあり方等について、研究会・勉強会を実施・支援し、後継者となる若手人材の育成を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 5 店舗の内数 最新値 11 店舗の内数 目標達成

達成した(出来なかった)理由	後継者育成のためのセミナー実施などのほか、関連事業の実施効果により空き店舗は減少した。
計画終了後の状況(事業効果)	求められるニーズに沿ったセミナーの開催など、若手人材の育成を行っている。
事業の今後について	高齢化が進む中、今後の企業活動の中心を担う若手人材の育成に向けた取組を行う。

4. 今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗し、目標値を達成することができた。地域別に見ると、観光エリアの北部地域と基本計画で課題としている中間の結節地域で減少し、駅周辺の商業エリアである南部地域では微増となったが、中心市街地全体では減少する結果となった。なお、南部地域は微増ではあるが、もともとテナントの入れ替わりが多く、長期間、空き店舗であることが少ないため、活性化が図られているものとする。

今後は、実施中の「旧川越織物市場保存整備事業」を進めるとともに、空き店舗情報の提供や店舗改修費用の補助といったソフト事業を引き続き実施し、空き店舗の更なる解消を目指す。